

高岡市民病院だより

Heart

Hospitality
Excellent
Amenity
Relationship
Trust

No. 69
JAN. 2025

謹賀新年 2025

新年あけましておめでとうございます



高岡大仏 (画像提供: 高岡市)

新年あけましておめでとうございます。昨年の1月1日には予想もせぬ能登半島地震が起こり不安なスタートでありましたが、今年は安らかに新年を迎えられたのではないかと思います。昨年は、医師の働き方改革の開始や5類感染症に移行後も続く新型コロナウイルス感染症に対する対応など課題は多数ありましたが、当院では職員一丸となり課題を克服するべく切磋琢磨している状況であります。

当院では、昨年度4月より眼科の院内掲示をアイセンターに変更、医師も増員し、これまでよりも多くの患者さんのご紹介をいただいております。また8月より地域包括ケア病棟を開設し、急性期後の在宅復帰にむけた入院診療を開始するとともに、訪問看護を充実させ、また訪問診療を開始するなど今後増加すると思われる高齢者医療に貢献できるよう、今後も準備を進めていきたいと考えております。7月から始まった精神科病棟の個室化改修工事も12月中旬に終わり、より多くの患者さんにご利用いただけるようになりました。また11月に開催した“ふれあい健康フェスティバル”には600人を超えるご参加をいただきました。新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、参加された皆さんの楽しい笑い声や笑顔を見て、コロナ前の日常に戻ってきているのを実感しております。

これからも皆様のご要望に応えられるよう問題点を抽出し、職員一同、努力していくつもりでございます。本年も宜しくお願い申し上げます。



院長

福島 亘

【題字について】

Hospitality	こころのこもった接遇
Excellent	良質な医療で健全経営
Amenity	快適な療養環境
Relationship	人材を育成しよりよい人間関係
Trust	地域との信頼関係の構築



患者の皆様の権利を尊重します

本院では“生命の尊重と人間愛”を基本理念に、患者の皆さんと協同して最良の医療を提供できるよう以下の権利を尊重します。

1. 平等で最善の医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が守られる権利
3. 説明にもとづき医療行為を選択する権利
4. 診療情報を得る権利
5. プライバシーが守られる権利



新年のご挨拶

2025

HAPPY NEW YEAR



理事(経営戦略担当)・副院長

伊藤 博行

新年あけましておめでとうございます。
医師の働き方改革の開始、医療DX、AIの活用、マイナ保険証の導入などに新たな対応が望まれるようになりました。

さて最近、ウェルビーイング(well-being)という言葉が注目されています。

心身のみならず社会的にも健康で日常生活に満足感が持てる状態をいい、一時的な幸せではなく持続的な幸福が望まれます。

医療の世界においても高齢化社会、多様な考えを持つ方が増えた中、また世界の中

で幸福度が低いといわれる日本において個人の権利や自己実現が保障され、持続的な幸せを送ることが望まれます。

医療を提供する側、提供される側、いずれにもウェルビーイングが望まれます。

そのためにも治療を行う医療従事者がまづもって幸せな状態であることも大切です。個々の患者さんに向き合い、健康、幸福、福祉を達成できるよう日々研鑽し知識を高め、実践していける環境作りに努めていければと思います。



副院長

寺山 昇

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしく申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルスや季節性インフルエンザなどの感染症対策に力を注ぎ、多くの方々の健康を守るため、地域の医療機関の皆さまのお力添えをいただきながら、職員一同全力を尽くしてまいりました。多くの皆さまと触れ合いながら、地域に根差した医療を提供することの大切さを改めて感じる一年となりました。本年も引き続き、患者さんやご家族の皆さまが安心

してご利用いただけるよう、質の高い医療サービスの提供に努めるとともに、地域の医療機関との連携を強化し、より一層地域包括ケアシステムを充実させ、地域医療の発展に貢献してまいります。また、職員の健康と福祉にも目を配り、全職員が丸となって地域の皆さまに寄り添い続けられる病院でありたいと考えております。

皆さまにとりまして、本年が健やかで幸せな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



副院長・看護部長

稲見 年美

新年あけましておめでとうございます。
昨年のはじめは、能登半島地震から始まりました。その爪痕は残存し、人々の心もまだ癒されていないと感じています。自然災害は突然やってきます。今回、災害の怖さを身近に感じ、有事に備えた体制づくりの必要性を再認識致しました。災害拠点病院として、地域の皆さまの健康が維持できるように取り組んでいきます。

また、病院には病気を患い痛みがある方、思うように体が動かさず不便を感じておられる方、食べる気力がない方などがおられ

ます。そのような患者・家族に対し、誠実に対応し、想いに寄り添った看護を提供していきたいと思っています。患者にとって一番近い存在である看護師と多職種が連携し情報交換することで、その患者にとって何がよく、どんなケアが必要かをチームで考え、よりよい状態で退院できるように努めます。また家族や地域の医療関係者とも連携し、「この病院を選んでよかった」と思って頂けるよう努力してまいります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

精神神経科病棟個室化改修



精神神経科
主任部長(兼)
認知症疾患医療センター
センター長
たかはな ひろゆき
橘 博之
[専門領域]
精神科一般

高岡市民病院精神神経科は、高岡医療圏にある唯一の総合病院有床精神科として地域の精神医療を支えてきました。

平成11年に新病棟が完成してから25年を迎え、このたび治療環境の変化に対応すべく、病棟の改修工事を行いました。

今回は、病棟責任医師である橘診療科長と平尾主任部長、そして小川看護師長の三人に精神神経科の沿革や、病棟改修工事の詳細についてお聞きしました。



精神神経科
主任部長(兼)
認知症疾患医療センター
副センター長
ひらお なおひさ
平尾 直久
[専門領域]
精神科一般



看護師長
おがわ きよみ
小川 紀代美

——高岡市民病院精神神経科の沿革や特色、病棟改修工事の経緯について教えてください。

橘 ● 当院開設から10年後の昭和36年に設置されました。総合病院内に専用の入院施設を持つ精神科は当時としては貴重な存在でした。現在は4人の常勤医師、2名の非常勤医師を中心に看護師、臨床心理士、精神保健福祉士などの専門職員が治療や支援を行っています。一般的な精神科診療だけでなく、身体合併症を持つ患者さんの受け入れや修正型電気けいれん療法なども行っており、単科の精神科病院では治療が難しい症例にも対応しています。

現在の病棟は病院移転時に完成し、25年が経過しています。さらに充実した医療を行うため病棟の改修工事をしたと前々から考えていました。

——改修でベッド数を減らしたとお聞きしました。

平尾 ● 4人床4部屋を個室8部屋に改装し、ベッドは50床から42床に減らしました。全国的にも総合病院内の精神科病床が減る中で、ベッド数を減らすことには抵抗もあり悩みましたが、より快適な療養環境を提供することを目指し改修を行いました。

——病棟を稼働しながらの改修工事は大変でしたか。

平尾 ● 入院治療を継続できるよう工期を2期に分けて、病棟を半分ずつ稼働しながら工事を行いました。仮設の壁で仕切りを作るなどして、工事区域に患者さんが

間違っ入らないように安全対策も徹底しました。期間中は入院患者数を制限したため地域の医療機関にも協力をいただき、また、工事関係者の方々にも支えられ、患者さんへの影響は最小限に抑えることができましたと思います。

——改修工事後、患者さんの反応はいかがでしたか。

小川 ● 改修後の個室は明るい床材を使用したことで、空間全体に温かみを感じられる雰囲気になりました。実際に利用された患者さんもリラックスできるようで「気持ちがいいわ」と喜んでくださいました。ご家族も「面会時にゆったり話ができる」と満足されています。

——個室を増やしたことで期待していることはありますか。

平尾 ● 精神科の療養においては「安心して休むこと」が非常に大切です。個室化することで、患者さんが周囲に気を遣わずにしっかりと休息がとれることを期待しています。精神科専門病院のように患者さんの症状や年齢、性別等に分けて複数の病棟を持つことはできませんが、入院しやすい環境が整備できたと思います。また、当科は急性期総合病院の役割として重症者や合併症を有している患者さんの治療も行っています。重症対応が可能な個室が増えることの意味は大きいと考えています。これまでは個室満床のことが多く、他院から入院の紹介を頂いてもお待たせすることがありましたが、こ



精神神経科スタッフ

左から、看護師 副主任看護師 嵯峨優一、医師 主任部長 平尾直久、医師 竹内稜太、看護師 看護師長 小川紀代美、医師 診療科長(主任部長) 橋博之、医師 武田卓朗、看護師 主任看護師 小川剛史、看護師 副主任看護師 別所優美子



れからはもう少し迅速な対応ができそうです。

——総合病院の精神科として地域医療の分野ではどんな取り組みを行っていますか。

橘 ● 富山県からの委託を受け、認知症疾患医療センターとしての役割を担っています。急性期中核病院・自治体病院に設置されることは全国的にも珍しいことです。認知症の患者さんをご家族が安心して住み慣れた場所で生活できるように、さまざまな相談や鑑別診断などを行っています。

——今後、精神神経科が果たす役割とは。

橘 ● 開設当時は統合失調症やうつ病の患者さんの割合

が多かったのですが、近年は精神疾患に対する理解が深まり、発達障害などこれまであまり認知されていなかった疾病も増え、多様化しています。高齢化や社会の複雑化により患者さんの数も増加しています。最新の医療を提供できるように研鑽を重ねるとともに、患者さんの病状だけではなく、生活背景など社会的状況にも配慮した全人的な医療の提供を目指します。

改修期間中は地域の皆様や関連医療機関から多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後も連携を図りながら、高岡医療圏、呉西地区の精神科医療の発展に努めていきたいです。



高岡市民病院の母子支援室

母 子支援室では、母子とご家族のみなさんが安心して育児できる地域を目指し、安心で温もりのある支援に努めています。産後ケアでは、日々育児を頑張っているママの体と心を癒してもらうため、ママの思いを聴き、思いに添った環境を提供できるよう全力で取り組んでいます。本年もよろしくお願いたします！

母子支援室活動内容

・産後ケア事業

ショートステイ(宿泊)
デイケア(日帰り)
訪問

・産後母子外来(母乳外来)

通院、訪問

・訪問看護

・出前講座

・いのちの教室



母子支援室 TEL:0766-23-0204

お気軽にご相談下さい! ご連絡お待ちしております!
Instagramもご覧いただけます☆→



直腸・肛門の良性疾患



外科 主任部長
いまたけひさ
今川 健久

当院で行っている手術治療についてご紹介させていただきます。

直腸肛門の良性疾患で手術治療を行うものとして、一般的な疾患である痔疾患、ご高齢の方に見られる直腸脱があります。各々の病態、手術術式などを紹介します。

1. 痔核（いぼ痔）

肛門の内側、外側にある痔静脈叢が、腹圧がかかることにより、うっ血して膨らみ、痛みや出血、脱出などの症状が出てきます。内痔核と外痔核があり、どちらに対しても注入軟膏、内服薬での治療を行います。内痔核の症状が強くなってきた場合には手術治療を行うことがあります。

①内痔核硬化療法（ALTA内痔核4段階注射法）

内痔核に薬剤を注射して固めます。局所麻酔、腰椎麻酔で行います。初期段階にお勧めです。

②結紮切除術

痔静脈叢に流入する痔動脈を結紮し、痔静脈叢を切除します。腰椎麻酔で行います。手術創が半閉鎖創となるため、創の治癒まで1～2か月かかります。大きな痔核にお勧めです。

2. 裂肛（切れ痔）

肛門上皮の物理的な損傷で起こります。急性裂肛は注入軟膏で治療を行います。繰り返す裂肛で慢性裂肛の状態になると、肛門上皮が硬くなり、肛門狭窄となることがあります。肛門狭窄の目安は、直腸診で示指が入るかかどうかです。

①内肛門括約筋切開、肛門拡張術

腰椎麻酔下に内肛門括約筋の一部を切開し、用手的に拡張します。

②裂肛切除、SSG (Sliding skin graft) 法

腰椎麻酔下に慢性裂肛とその周辺病変（見張りいぼ、肛門ポリープ）を切除し、粘膜欠損部に肛門周囲皮膚をスライドさせて縫合閉鎖します。外側にドレナージ創ができます。

直腸肛門の良性疾患に対し、手術治療を行うかどうかは、患者さん本人の自覚症状によって決定していきます。

直腸肛門疾患にお悩みの患者さんに、選択肢として提示していただければ幸いです。



3. 肛門周囲膿瘍、痔瘻（あな痔）

肛門陰窩という肛門内側のくぼみから細菌が入り込み、肛門周囲組織に膿瘍を形成します。膿瘍が外側に開口することで炎症は治まりますが、瘻管が形成されて痔瘻となります。痔瘻の状態になってから、瘻管を切除する手術をお勧めしています。

①レイオープン法、コアリングアウト法

単純痔瘻に対して瘻管を切除します。創閉鎖まで1～2か月かかります。

②シートン法

複雑痔瘻に対して、瘻管にシートンと呼ばれるゴム輪を通し、ゴムの締め付ける力で徐々に組織を切っけていきます。創閉鎖まで2～3か月かかります。

4. 直腸脱

直腸が全周性に反転し、肛門から脱出している状態です。高齢の女性に多く、歩行で自然に脱出するため、歩行が面倒になりADLが低下する要因となります。ほかの骨盤臓器脱を合併することがあります。

①ガントー三輪、ティールシュ手術

直腸粘膜に絞り染め状の結紮を多数作り、直腸粘膜を縫縮することで直腸を還納させます。肛門皮下に結紮糸を通して肛門を締め付けます。侵襲は低いですが再発する可能性が高いです。再発率は50%以上です。

②デロルメ手術

直腸粘膜を剥離、切除し、余った筋層部分は折りたたんで縫縮します。脱出長が長い場合には効果が弱いです。再発率は10～15%です。

③アルテマイヤー手術

経肛門的に余剰な直腸S状結腸を切除し、肛門に近い部分で吻合します。再発率は5%未満です。

④直腸挙上固定術

腹腔内から直腸を挙上し、釣り上げた状態で仙骨岬角に縫合固定します。全身麻酔下で開腹または腹腔鏡で行います。再発率は1%未満です。

【開催日】令和6年11月10日(日)

ふれあい健康 フェスティバル

を開催しました。

市民の健康意識向上と、地域の皆様に親しまれる病院を目指し開催された当イベントは、天候にも恵まれ、多くの笑顔と元気を育んだ一日となりました。



「津軽三味線芸人 中山孝志さん・安藤有希子さん」



司会を務めた吉本芸人
吉田サラダさん



吉本芸人「レギュラーさん」
高岡市にちなんだ「あるある探検隊」を披露



カバンの中身を透視してみよう



ベジチェックを使って推定野菜摂取量チェック!

ステージでは、司会を務めた吉本芸人「吉田サラダさん」が、間をとり心地よいテンポでスタートしてくださいました。

また、伝統と新しさが融合した「津軽三味線芸人 中山孝志さん・安藤有希子さん」の繊細な音色から力強い音色まで表現された演奏に、来場者の心が引き込まれていました。

さらに、吉本芸人「レギュラーさん」は高岡市にちなんだ「あるある探検隊」を披露していただいたほか、来場者と一緒に脳トレを行い会場が笑いと熱気に包まれました。

「バックヤード探検隊」のコーナーでは、普段見ることのできない手術室の見学、電気メスを使用して実際に鶏肉を切る体験、放射線を利用してカバンの中身を透視してみる体験が行われました。

その他、健康に関するブースやワークショップも行列ができるほどの盛況ぶりで、ご来場の皆様には混雑によりご迷惑をかける場面もありましたが、楽しんでいただけたことと思います。

600人余りの方が来場され、フェスティバルを盛り上げていただきました。ご来場いただいた皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、市民の皆様が親しまれる病院として努めてまいります。

産後甲状腺疾患パック・産後妊娠糖尿病パックを始めます!

妊娠中に妊娠糖尿病と診断された方は、将来的に糖尿病になる可能性が高くなると言われています。そのため、出産後3か月を目途に、ブドウ糖負荷試験により状態を把握することが望まれています。また、甲状腺疾患と診断された方は、出産後に甲状腺ホルモン値が変動することがあります。これは、妊娠中に生理的に抑制されていた免疫系が、出産後に亢進するためです。そのため、出

産後3～9か月は、甲状腺ホルモン値に注意する必要があります。

しかし、産後は頻繁な授乳等による睡眠不足や家事で忙しく、自分の身体は後回しとなり、受診したいと思っても、赤ちゃんを抱えての受診が難しいと感じる方も…。

そこで当院では、産後甲状腺疾患パック・産後妊娠糖尿病パックを始めます! 赤ちゃんと一緒に来院された際は、検査の待ち時間は母子支援

【問合せ】高岡市民病院 内科外来

室の個室で過ごすことができ、また、助産師や看護師による相談を受けることもできます。もちろん、検査中は赤ちゃんを預けて、安心して検査を受けられます。

育児で精一杯になっているママが、自分の身体にも目を向けながら安心して子育てできるよう、スタッフが一丸となって支援させていただきますので、ご心配な患者さんがおられましたら、ご紹介ください。